

《観光振興部》

◎浜田（英）委員長 次に、観光振興部について行います。

初めに、部長の総括説明を求めます。

なお、部長に対する質疑は各課長に対する質疑とあわせて行いたいと思いますので、御了承願います。

（総括説明）

◎浜田（英）委員長 続いて所管課の説明を求めます。

〈観光政策課〉

◎浜田（英）委員長 最初に、観光政策課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

◎池脇委員 外国からの観光客が随分ふえてきているということで、これからも外国人の観光客に対する対応を進めていくことではあるけれども、そこで、先ほど説明の中で、本県の観光商品で、外国人がクールと評価していただいている商品の主なものは、どのようなものがあるんですか。

◎小西国際観光課長 国際観光課の小西と申します。クールということで、本県の魅力という部分でお答えします。台湾それから香港のお客様が、今多く高知に訪れていただいています、ほぼ四国を周遊するような形で、団体のバスツアーが中心になっております。それで、例えば高知では、高知城でありますとか、四万十川、そういった日本の文化、それから絶景、自然に親しみを感じて、高知にも足を運んでいただいている状況でございます。海外の皆様におきまして、この高知の大自然に、クール、魅力を感じていただいている部分もあろうかと考えております。それから食の部分も、我々非常に自慢の食がございますので、カツオのタタキを中心に外国の皆様にも御紹介して、評価もいただいております。

◎池脇委員 先ほどの課長の説明のときに、いわゆる観光商品を開発していくというお話があったもんですからね。外国人が魅力に思う商品開発をしなければ、飽きられるわけですよ。いい商品を開発すれば広まっていくわけですから、そういう意味で今外国の方が高知県の観光商品、食もあるでしょうし、景色もあるでしょうし、その他さまざまあると思うんですが、どういうところに関心を引かれているのかを、ちょっとお聞きしたかったんです。だからインバウンドでたくさんの方がお見えになりますけれども、そうしたときに一体どういう部分、どういうところに反応しているかを、しっかり観察をして商品化することが大事だと思うんですね。そうしないと、いつまでもインバウンドでこの流れが続いて、来るかもわからないわけですから。それでも、一遍高知に来た人が今度家族連れで

とか小単位で、もう一度行きたいなど、あそこはあれがクールだったなど、しっかりその魅力が心に残るものがあれば、リピーターが見込めるわけですから。その意味での商品開発って大変大事と思うんで、ぜひ問題意識を持ってつくり上げていただきたいと思いますけれども、いかがですか。

◎辻観光政策課長 それこそ来年2月からスタートさせます自然・体験型キャンペーンにおきましては、生活文化の異なる外国の方でも、この自然の豊かさを享受する、あるいはアウトドアを満喫するといった観点では、本当に親和性が高い部分になってこようかと思っております。国内のお客さんのニーズなんかもしっかり踏まえて、観光開発をしていくのは当然ですけれども。特に本県が重点的な市場と捉えている海外のトレンドとか、ニーズもよく分析してこのキャンペーンの中に生かして、インバウンドの入り込み数が少しでも上積みできていくように、つくって売ってというサイクルを回していきたいと思っております。

◎土居委員 観光振興推進事業費の国内誘致の事業ですけど。この決算額を見ても、MICEの誘致に随分力を入れておられるように感じるんですけど。29年度のMICE誘致の実績はどうだったのかをお願いします。

◎辻観光政策課長 昨年度のMICEの実績といたしまして、人数にいたしまして3万人。目標設定も3万人で設定していたんですけども、その3万人を何とかぎりぎり達成できる3万531人の受け入れ実績がございます。

◎土居委員 延べ3万人ということですね。

◎辻観光政策課長 そうです。

◎土居委員 やはり高知市に来られる方がほとんどですかね。

◎辻観光政策課長 やはり大きな会議、会場とかを考えると、どうしてもほとんどが高知市に集中しておる状況だと受けとめております。

◎土居委員 これだけの効果のあるMICE誘致ですので、やはり高知市のみならず、それを少しでも周辺部の、泊まる場所と、学会等の会が開けるキャパシティにもよると思うんですけど、環境に応じて波及もできるんじゃないかと思うんですけど、その辺県としては今後どんな感じなんですか。

◎辻観光政策課長 おっしゃるとおり、もちろん経済的なインパクトでいうと、ある意味郡部の市とか町であればあるほど、インパクトは大きいと思っております。確かに、例えば大きなホールがあるかとか、一遍にお泊まりいただける施設があるかとか、条件はあろうかと思うんですけども。条件が適合すれば、特に高知市にとらわれず、郡部の市とかにも極力お越しいただけるようなセールス活動は進めていきたいと思っております。

◎土居委員 それには当然市町村との連携であるとか、一度来てくれた学会のグループとかにもう1回来てもらおう、継続性を求めていくとか、一定の戦略も必要だし。また県とし

ての誘致の体制も大事になってくると思うんですけど、その辺、県はどう取り組んでいけますか。

◎辻観光政策課長 現在コンベンション協会の中に、このM I C Eも進める担当を配置していただいております。そちらがいわゆる学会とか、大きな会を開催する団体とか、大学とか、そういったところに日常的にセールス活動を展開しております。あと委員のおっしゃられた市町村との連携という部分で、ひょっとするとまだまだこれからという側面があるのかもしれないので。そういった視点も含めて、おっしゃるように本当に地域地域でもこういった会が開催できる、受け入れができるということは、ぜひ目指していきたいと思えます。

◎金岡委員 いろいろやっていただいて、ありがたいと思っております。そうした中で、ことし特に見られた、ことしということもないんですが、ラフティングのお客さんは随分来ていました。1日にひょっとすると1,000人近く、文字どおり流れております。流れておるといのはどういうことかという、徳島へ行ってしまふ。ほとんどが全部池田へ行ってしまふ。それを何とかとめる方法はと考えておるんですが、難しいところもあります。いわゆるインバウンドの外国人のお客さんがたくさんいらっしゃいます。何を目的に来られるのかという、そのラフティングなんですが、よその国の河川は非常に濁っておると。世界で1番きれいなんじゃないだろうかと言われておりますので、ここはぜひとも売り物にしていきたい。

もう一つその関連で言いますと、外国人のお客さんがたくさんいらっしゃって民宿等に泊まっております。受け入れの体制というのは、私は必要ないと思えます。要するに言葉がわからないとか、全然関係ないですね。もう簡単に受け入れてあります。何を言いたいかという、ほとんどは口コミなんですよね。要するに、全く発信ができてないんです。そこら辺を何とかうまくできないものかということですね。もっと加えて言うならば、神社仏閣へもよく来ます。それから、夏祭りへもよく入って来ます。ほとんど口コミですね。そういうものを発信ができれば、紹介ができれば、これはかなりいらっしゃるのではないかなと思うんですが、そこら辺の発信、あるいは紹介等についていかがですか。

◎辻観光政策課長 現在県ではインバウンド向けの情報発信ツールとして、V I S I T K O C H I J A P A Nというホームページを持っています。一つにはやはりここでの情報発信力、すなわちそこに載せる情報量をもっと多くしていくことだと思います。それからもう1点、来年2月からの自然・体験型キャンペーンに向けて、現在特設サイトの開発を進めています。どういった内容かという、今まさに金岡委員がおっしゃった、例えばラフティングであるとか、もちろんダイビングもそうですし、あとアクティビティーだけじゃなくて、例えばガイドさんと歩く歴史のまちあるき体験であったりとか、そういった県内にあるさまざまな体験にかかわるコンテンツを、ぎゅうっと情報を一元化して、ここ

さえ見てもらえれば、高知県内の体験プログラムが全て網羅されているというサイトを、今開発中です。このサイトは、多くの言語に対応するのは技術的になかなか難しいところはあるんですけども、少なくとも自動翻訳機能は備えて、少なくとも英語での表記はできるように現在準備中でございますので。おっしゃっていただいた口コミという部分でいくと、SNSでの拡散とかも大事だと思っているんですけども。加えてVISIT KOCHI JAPANと現在開発中の新たな特設サイトでの情報発信、情報量の充実もしっかりやっていきたいと思っています。

◎**金岡委員** それともう1点、同じ話なんですけど、外国のお客さんが多分高松空港あたりへ入ってきて来られるんだと思いますが。前も申し上げたと思いますが、大歩危駅へ皆さんおりられます。ところが、大歩危駅には高知県の紹介の情報は何にもないです。だから恐らく高知県へは一部の知っている方しか入ってこないんですね。ほとんどが祖谷へ入っていく形になっていると思うんです。ある種、徳島県ですけども、高知県の入り口みたいなもんですから、そういうところへ情報を流していく、あるいはパンフレットを置いていくことをやれば、随分外国のお客さんも入ってきやすいんじゃないかなと思うんですけども、いかがですか。

◎**小西国際観光課長** おっしゃるとおり、大歩危のほうにはJRパスを使って、祖谷のほうに外国の方が訪れているとお聞きしております。委員おっしゃられたように、そういったところに、高知の情報を置いていくのも効果的だと思いますので。またどれぐらい置けるかはこれからですけど、置けるものを置いていただくようお話もしていきたいと思っています。あと四国全体でパンフレットなんかもつくっておまして、その中には当然高知の観光地等も含めた四国版のマップでありますとか、観光ガイドブックもございますので、そういうのも使っていただけるように、宣伝をしていきたいと思っています。

それから先ほど言いましたSNSを使って、やはりこれから個人で来られるお客様が多くなりますので、外国の方にもアドバイスもいただきながら、我々が気づいていない目線で、外国の方が感じている魅力等もあると思いますので、SNSを使って直接旅行を目指しているお客様に情報をお届けしていくような手法を、今後も研究もしながらやっていきたいと考えています。

◎**金岡委員** 私も誤解しておったんですけど、私は今まで受け入れ態勢がなければいけないと思っていたんですけど、その必要はないですね。食堂へ行っても民宿でも、もう本当に全く日本語のわからない方が適当にやっていますので、私はその心配は全くないと思うんです。受け入れよりも、今言ったように情報発信に、やっぱり重きを置くべきであろうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

◎**塚地委員** この夏に、1日4,300人の日本母親大会が無事成功いたしまして、2日間で約1万人の皆さんにお越しいただきまして。知事にも御挨拶いただいて、大変みんな喜んで

帰りまして、お世話になりました。それで、その中で何ちゃじゃないことなんですけど、このMICEを誘致するのに結構大事なと思ったのは、お弁当だったんです。結構お弁当を吟味いたしまして、高知のいい食材を安くつくっていただいて、そのお弁当が大変好評で。高知の食材はおいしいと言って、すごい喜んで帰ってくださって、前もってお弁当を吟味したのはよかったなあと。それで、高知の物を買って帰ろうとか、食べに行こうとかで、行き切れなかったところにまた来て行こうとかって言っていただいて。私はあんまりそんなに考えなかったんですが、さすが女性の会で、すごくそこに力点を置いていてくださって。波及効果としては、そんなに高くなくつくっていただけだと思うんです。なので、そこは主催者の皆さんにも、アドバイスの言っていたら役に立つんじゃないかなと思って、それは一つ提案でございます。

それと、プロモーション事業なんですけど、このフィルムコミッション事業は今どんな感じで、このロケに対する支援費300万円って決算はどういう状況。

◎辻観光政策課長 こちらに上がっている経費が、支援を行った経費というよりも、むしろ観光コンベンション協会が、日本フィルムコミッションの主催するイベントなんかに参加して、県外関係組織とのネットワークづくりとか、コンベンション協会のフィルムコミッションのスキル自体を上げていくための研修とか、そういった部分に主に充当したものでございます。フィルムコミッションの事業といたしましては、ロケーションのサービス事業も、ロケハンとかロケのときの情報提供であったり、サポートであったりといった活動に、日常的に努めておる状況です。

◎塚地委員 結構人脈が大事な事業でもございますので、ぜひそこは大事にしていいただいたらいいんじゃないかと思うんですけど。ちょっとこれと直接関係ないんですけど、今生懸命、ジョン万をどう売り出すとか、牧野富太郎さんの朝ドラをやろうとかいう動きが結構活発化していて。やっぱり一旦そういうマスコミのものに載ったり、映画化されるということになると、観光への影響は大変大きいので、そういうことに対するこちら側の支援は、例えば一緒に売り込みに行くみたいなことも、やったださっているものなんですか。また、そういうところから呼びかけがあれば、何か対応ができるとか。

◎三浦観光コンベンション協会専務理事 コンベンション協会専務理事の三浦でございます。ジョン万、フィルムコミッションでやっているというよりは、映画の誘致なんかについては、土佐清水市で誘致の推進協議会みたいなやつを立ち上げて、県も一緒にその組織の中に加わった形で、自治体として一緒に連携してやっていると。フィルムコミッションというのは、どちらかという映画を誘致してくるという話で、こちらからの情報発信の、実際に取り上げてつくってくれという部分とはちょっと違うということです。フィルムコミッションの中では、それはやっていなくて、牧野の部分は私ちょっと詳しくないんですけど、ジョン万のほうは自治体中心というか、実行委員会中心に取り組まれているという

ところにあります。

◎塚地委員 違いがわかって聞いたつもりではございましたけど。牧野富太郎先生の活躍も結構大きくて、それは高知県の自然とタイアップしていける、おもしろいものになるんじゃないかと思って。今大分動きも頑張ってお始めているので、また注目していただけたらと思います。よろしくお願いします。

◎三浦観光コンベンション協会専務理事 はい、わかりました。

◎浜田（英）委員長 課長は早明浦ダムでワカサギが釣れゆうことは御存じですか。

◎辻観光政策課長 はい、聞いたことがあります。

◎浜田（英）委員長 行宗さんは当然知っちゃうと思いますが。冬場のアウトドアのアクティビティー、やっぱり閑散期にいかにか集客をするかということは、大変な難しい課題よね。黒笹さんが、早明浦でもおもしろいよということで、テストで釣ったら結構おもしろいよね。ほんで、今度プレ大会でワカサギ釣り大会をやるんですけども、これを何とか冬場のアクティビティーにつなげて、あの寒い嶺北地方での冬の名物にして。もう既に金岡委員さんもいろいろ尽力いただいて、大川村もいかだの中へドーム型のハウスをつくっていただいて、そこで釣ったやつを揚げもって、一杯できるような装置も仕掛けているようなことのでございますので、ぜひこれを県も支援をしていただきたいと。さめうらプロジェクトの辻村君が一生懸命やってくれよりますけれども。それからフィッシングハヤシの社長も、あそこへふ卵器を、卵をあそこでどんどんかえすように、それを日本釣用品工業会へエントリーをしていただけるような形で進んでおりますので。嶺北で1番広いフィールドは早明浦ダムです。あの広いフィールドを遺憾なく活性化につなげて、観光の誘客につなげたら。ワカサギ釣りは老若男女問わずみんなが楽しめる世界ですので。また釣り好きの行宗副部長も参加してね、ぜひともやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

◎尾下副部長 プレ大会も含めて、大川村から情報をいただいています。今、大川村プロジェクトの中の取り組みの一つということで、観光振興部も次のキャンペーンに向けて支援をさせていただくことにしております。

◎浜田（英）委員長 ありがとうございます、よろしくお願いします。

以上で観光政策課を終わります。

〈国際観光課〉

◎浜田（英）委員長 次に、国際観光課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

◎浜田（豪）委員 よさこいチーム海外派遣委託料のチームは、どのチームが行ったのか、そしてまたどのようにそのチームを選んだのか、教えてください。

◎宮地国際観光課企画監 よさこいの海外チーム派遣委託料につきましては、昨年度は台湾で行われましたランタン祭り、それと新竹県のお祭りに参加をさせていただいております。ランタン祭りには、ほにやさん。新竹県のほうには、とらっくよさこいさんに御参加をさせていただいております。この海外へのチームの派遣、それから国内でのよさこい祭りへの派遣につきましては、高知県で行われるよさこい祭りでの昨年度の入賞チームを対象に、次にこういうところに派遣をする予定があるんですけども、参加の御希望はありますかという意向調査を行いまして、御希望があったところとマッチングをさせていただいて、依頼をしている状況でございます。

◎浜田（豪）委員 安心しました。というのも、先日の天皇皇后両陛下がお見えになった行幸啓のときに、かるぽーとでよさこいをやられておったんですけど。本当に大変恐縮なんですけど、私はそんなによさこいのことを知らないというか、そんなにチームも知らない人間からすると、あんまり聞いたことがないチームが出ておまして。先ほどおっしゃるとおり、この素人の私でも知っているような、ほにやなど3大チームみたいなチームがあると思うんですけど、そういうエース級を投入していただいたら。もちろん天皇皇后両陛下おられませんでしたので構いませんけど、県外から来られた方に御披露するときに、そういうチームのほうがいいのかななんて、個人的に思ったところでありまして、それは本当に安心しました。海外に行くときなんか、特にそういうのが必要なんじゃないかなと思うので、安心したところであります。それと、海外のよさこいのプロモーションなんですけど、これ一体どの程度の目的地というか、想定をされておるのか。海外に認知していくといっても、海外といってもこれだけ広い中で予算もかけていって、東京オリンピックまでで終わる、2020年で終わりとか、どういう最終地を考えてらっしゃるのか、教えてください。

◎小西国際観光課長 海外のよさこいのプロモーションということで、台湾につきましてはもう7年ぐらい前からずっとランタン祭り、台湾で最大のお祭りに、先ほど御説明しました高知のトップチームを派遣して、よさこい発祥の地高知を台湾の皆さんにも知っていただく、そしてそれが最終的にはインバウンドの誘致でありますとか、貿易の促進といったものにつなげていきたいという思いで、台湾については重点的に今取り組みを進めております。

それから、その他の地域につきましては、東京2020のオリンピック・パラリンピックでの演舞を目指してということもございまして、全国のよさこい団体と一緒に取り組みを進めております。東京オリンピックで、よさこいをさらに世界に発信をしていこうという取り組みをしておりまして。いろいろな国から派遣の要請なんかもあるんですが、経費の問題とか、あと先ほどおっしゃられたように費用対効果の問題もございまして、まずは海外にチームをつくってもらおうという取り組みをしていこうじゃないかと、よさこいマイ

スターということで、よさこいのチームづくりを支援していただける方を募って、海外で要請があるところに行っていただこうと、昨年は、木浦共生園でありますとか、香港のお祭りでよさこいをやりたいという、現地のダンススクールなんかにも派遣をさせていただいております。

それともう一つはJICAのプログラムで、南米には青年ボランティアで長期間、よさこいを現地で根づかせていただくことを目的に、JICAのほうで派遣をしていただいて、取り組みも進めておまして。どこまで派遣するのは、なかなかスパンと言えない部分はありますけど、台湾なんかについてはずっと関係を築いていくことも大事だと思います。それからそのほかの国も、場合によっては派遣も検討しなければいけない事案もあると思いますし、それぞれの地域でとにかく広げていくということで、チームをつくっていく部分をサポートしていくといった取り組みをしながら進めていきたいと考えています。

◎浜田（豪）委員 よくわかりました。

◎池脇委員 よさこいの国際化の一番最初は、ロンドンオリンピックのときだと思うんですね。ロンドンオリンピックで初めて各国の踊り、開会式でやる部分と、それからその前座で開会の前に会場の外でやるやつで、そういう仕組みをイギリスがされて。そのときに私の知人から、よさこいもぜひ参加をさせませんかというお話をいただいて。これはオリンピック協議委員会でも決めなくちゃいけないんで、そこに関係のある方だったんですけども。それで県に働きかけて、そのための支援をお願いをしたんですけども、結局そのときには高知県は余り乗り気じゃなくてね。オリンピックによさこいを出す、これは派遣をするわけでお金が要ることですから、行政で一定の補助が出なければ、全部個人持ちになるんでね。相当僕も話をしたんですけど、その当時、中谷先生とか、うちの石田衆議院議員とか、国会議員も中に入っていたいただいて一生懸命あつせんをした時期が。ここは一つの契機であったかとは思うんですね。県もそういうチャンスがあるんだという認識も持っていて。その後オリンピックは、そういうこともやりましょうと、ロンドンオリンピックからそれが伝統化してきていますから。今回の東京オリンピックでも、当然これは国内で行われるわけですから、国内のそれぞれの県の踊りが参加する運びになるかと思うんで。ぜひそういう流れの中で、台湾とか外国にも行くようになるし、また外国の方もことしのよさこいでは踊っていただいたということで、かなり国際的にもこのよさこいが、交流の大きな要素になっているということも、新しいよさこいの流れじゃないかなと思いますんで、非常に大切にしてください。こういう国際化に向けての対策も、ぜひ充実をしていっていただきたいと思いますが、いかがですか。

◎宮地国際観光課企画監 オリンピック・パラリンピックの開閉会式のよさこいの演舞につきましては、高知を発祥としまして今全国200カ所以上に広がったよさこいを、日本の祭りということでぜひ披露させていただきたいと、昨年3月に実行委員会を立ち上げまして、

組織委員会にも要望活動を続けております。

その中で、ロンドンオリンピックのころに各地の文化を発信しようと、文化プログラムがたくさん開催されたと伺っております。日本でも組織委員会が主催で文化プログラムを開催することになっております。また、日本全体で盛り上げていただきたいと、共催プログラムも計画もされておりますし、それ以外にも各地域で盛り上げようという動きがございまして。そちらの文化プログラムでも、高知を発祥とするよさこいの演舞をさせていただきたいと、あわせて組織委員会には要望をしていっているところでございます。

それともう一つは、海外の取り組みなんですけれども。海外への発信事業で、海外のチームで活躍される方にアンバサダーに御就任をいただく取り組みを、平成28年からやっておりますが、そのアンバサダーになっていただく就任式のために高知にお越しいただいた方が、高知でやはり踊りたいと、自分たちのチームで高知のよさこい祭りに参加したいというお声もたくさんいただいておりますので。まずはそういう海外のチームの方が踊りやすい環境も整えて、ますます高知のよさこいが海外で認知されて、それをきっかけに高知に来ていただけるような取り組みをしてまいりたいと考えております。

◎浜田（英）委員長 浜田豪太委員のさっきの質問に関連したことですが、天皇皇后両陛下の有終の美を飾る最後の行幸啓、無事に盛会のうちに幕を閉じることができました。皆様方のおかげだと思います。御礼を申し上げたいと思います。

ただ、一つ残念なことがございました。それは何かと申しますと、その日に重ねて入ったクルーズ船があったんです。そのクルーズ船は、全然バスのチャーターができていなかった。ですから、たくさんのインバウンド観光客が高知新港で、もう棒立ちで何十分も何時間も待たされた。要するに、観光バスが1台ぐらいしかチャーターできてなくて、それがピストン運送で市内と往復しよったそうです。それでタクシー会社にも電話がかかってきた。タクシー会社の社長と私は話したんですけれども、ふだん高知新港からタクシーの呼び出しがあって行っても、乗ってくれた試しがない。ほとんどがみんなバスばかり乗る。だからオオカミ少年よね、今度もきっと誰も乗ってくれないだろうと思って、タクシーの要請もあったけどあんまりタクシーも行かない。結局何台か行ったら、物すごい人がたくさん並んでいるよと。そのタクシーに乗ったインバウンドのお客さん、もう高知には二度と来るか、こんなところはと、非常にみそをつけた残念なことがございました。随分と海外からインバウンドの、高知に悪い印象を持ったと思います。これ一つ反省点で。

それで解決策として、そのタクシー会社の社長が僕にこう言いました。高知新港のタクシー乗り場、あるいはバス乗り場へウェブカメラを設置してくれんかと。それで、いつでもその状況が見えるように、大分待ちゆうなど、バスへ乗るがを待ちゆう人がおるから、それじゃあタクシーをぱっと回そうかと。こういうことが、対策として一つ考えられるんじゃないかと。ウェブカメラをつけることは、あんまりお金が要らるので。自分が見たい

ときだけ、高知新港のクルーズ船が入ったときの、お客さんの待ち具合を見れるだけでいいんです。これをぜひ設置して、タクシー会社のみんなが見れるようにしてやったら、それなりに効果があるんじゃないかということですので、ぜひとも御検討いただきたいと思っています。

これはクルーズ船が入ってくるのに、ほとんど天皇陛下の行幸啓で、バスが全部貸し切り状態になっておったんで、恐らく無理だったと思うんですけども。そういう状況は、前もってわからなかったのかなと思って、非常に残念に思いました。そこら辺どうですか。

◎谷脇おもてなし課長 おもてなし課長の谷脇です。10月28日のMSCスプレンドィダという船なんですけど、この客船は少しこれまでのクルーズ船と形態が変わってしまっていて。皆さんジャパネットたかたって聞いたことがあるかと思うんですけど、ジャパネットたかたのお客様をメインにしたクルーズ船でした。外国客船ではあるんですが、ほとんどのお客様が日本人でして。またツアーの作り方が変わってしまっていて、通常のツアーとは別に、桂浜とかカツオ船とか、そちらのほうを巡回するツアーが、25台ほど組まれていました。なので、そのお客様が巡回バスに乗るのを、少し待たれていたという情報を聞いております。市街地に来る分のシャトルバスは、通常でしたら到着しまして1時間後ぐらいには出るんですけど、その巡回バスの関係で、到着、寄港が大体1時ぐらいだったんですけど、3時ぐらいからシャトルバスが出るような状況でして。初めての試みの船にはなっています。おとといにも同じようにMSCスプレンドィダで、ジャパネットたかたの船が入ってきました。前回の反省を生かしまして、少しツアーバスの巡回の方法とか、あと坂本龍馬記念館で混雑がありましたので、そういったところの改善を試みましたが、まだまだ少し改善が必要という声も聞いております。今後、港湾振興課とコンベンション協会とおもてなし課で、ツアーの造成とか、そういったお客様の回し方、あるいは先ほどのタクシーのお話とかを検討していきたいと思っています。

◎浜田（英）委員長 外国人が二度と来るかと、日本語で言いますかね。社長はそういうふうに言うたんで、多分インバウンドの外国人がそう言うたんかなと思ったら、ジャパネットたかたのツアーだったんですか。いずれにせよ悪い印象を与えたことは確かですので、改善できるところは努力していただきたいと思っています。

以上で、国際観光課を終わります。

〈地域観光課〉

◎浜田（英）委員長 次に、地域観光課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 質疑を行います。

◎大野委員 越知のキャンプ場ですけども、おかげさまで第1弾が完成しまして、今5,000人ですか、5,000人が多いか少ないかは僕もよくわからんですがですけど。いずれにせよ、

これから先来た人に、いかにその地域でお金も落とさせていただくかちゅうことを、ちょっと考えていかないかなかなど。地域でもいろんなことを考えている中で、先ほど説明があった地域観光推進交付金は、決算額がゼロで限度額が4,500万円。これは5年間で4,500万円使えるということなんでしょうかね。

◎澤田地域観光課長 はい。こちらのほうは、5年以内で限度額が使える形になっていますので、掛ける5という制度ではございません。

◎大野委員 ということはその中で、先ほど言った地域にお金が回るような仕組みなんかもつくれる、そういうところにも活用できる事業ですね。

◎澤田地域観光課長 はい、御指摘のとおりでございます。例えばカヌー等の備品なんかをこれでそろえていただくこともできますでしょうし、越知駅と連携した事業なんかに、活用していただけたらと考えております。

◎大野委員 例えば、単年度で一気に使うこともできるし、分けて使うこともできるということよろしいですかね。

◎澤田地域観光課長 はい、そうでございます。

◎上田（周）副委員長 部長からも冒頭、来年2月から自然・体験型の観光キャンペーンの展開というお話があって、先ほど課長からも、仁淀ブルー観光協議会の話もありましたが。そんな中でおかげさまでいの町、この歴史観光資源、観光クラスター形成、今沈下橋ブームというか、名越屋の日高村といの町にかかっている沈下橋が、行かれたと思いますが、仁淀ブルー効果で毎週土日は結構県外から来ていますね。せんだっても神奈川県から、どうして来ましたかというたら、インターネットを見て、これを見て次どこへ行ったらいいですかいうて、逆に尋ねられました。

そんな中で受け入れ体制の問題です。ここはトイレの問題がありまして、具体的に言いましたら、周辺の住んでいる方の家へ借りに来るという実態があります。もう一つ、いわゆる仁淀ブルーの原点、カワガラスが住み込んで、今ひろめ市場にもありますし、JRの高知駅にもありますし、旅広場にも物すごいPRしてくれています。

そんな中でちょっと困っているのが、これは土木部にお話ししなければならないと思いますが、例えば仁淀ブルーの原点、安居溪谷へ行くのに、これからまた紅葉のシーズンで、土日になりますと県道安居公園線が、県外の車で来た方と地元の方が行き違いができずに。県外の方は危ないから中央のほうに寄って来るんですよ。この土日に毎週、今地元の役場の方が交通整理で。ありがたいけど、地元の日常生活に本当に支障が出ている現実がありますので。そのあたり、これは質問ではないですけど、また部の間で協議を、例えば退避所を設けるとかいろんな方策があると思います。ふだん5分で国道494号へ出てこれるところが、1時間もかかるという現実の問題がございまして、そのあたりまた検討していただきたいと思います。これは本当に切実な、ありがたいけどそういう問題があるということ

で、承知をしていただきたいと思いますし、お願いしておきたいと思っております。

◎澤田地域観光課長 まず1点目に御指摘いただきました、トイレ整備の問題でございますけれども、今回の自然・体験型観光に伴いまして、この6月議会でメニューを拡充させていただきました。その中で自然景観を整備するであったりとか、体験型施設を整備するという補助メニューをつくりましたけれども、やはり単なる修繕等ではなくて、地元にかんしてお金を落とさせていただくかというのが、一つの眼目でございます。したがって、先ほどのトイレ整備に関しましても、例えば伊尾木洞のほうもやはりトイレ整備の問題がございます。あちらのほうでは観光案内所とガイドさんが駐在できるようなところをつくることによって、あわせてトイレ整備もするという知恵出しもいただいたところでございます。そういった形で、何らかのお金が落ちる仕組みとあわせて整備をしていただく工夫ができれば、大変ありがたいと思っております。我々のほうでも市町村任せではなくて、こういったことがアイデアとしてできるのではないかと御助言もさせていただきながら、整備を進めさせていただきたいと考えてございます。

それと、もう1点の基盤整備の関係でございますけれども、庁内で土木部、我々、ほかの関係部局と、基盤整備でP Tをつくってございます。したがって、きょう御指摘がございました点につきましても共通の課題として、そちらのほうにも我々としてお話をさせていただくような形で、対応させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎上田（周）副委員長 この補助金の一覧表を見ても、恐らく2月からは、この観光資源というか地域資源の掘り起こしで、中山間地域が主な舞台となろうかと思っております。そんな中で、実際ありがたいのですが、例えば沈下橋、増水した後とか、それから溪谷とか、ちょっと危ない面もはらんでいる部分もありますので。そのあたりまた、今地元のお話も出ましたので、地元の市町村とよくよく話して、展開をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◎金岡委員 先日、豊穰祭in嶺北がありましたけれども、圧倒的な人が出ていました。もう物すごい人でしたね。昨年、一昨年どうだったかといったら、それほどじゃなかったと思っておるんですが。そしたら、それほど変わった要因とは何なんだと。もちろん会場の問題もあったでしょうし、それから天気もよかったということもありますけれども。やっぱり宣伝、広報が行き渡ったんじゃないかという思いがしています。それだけであれだけの違いが出てくるのかなと。いらっしゃった方、誰かいらっしゃいますか。大変な人だったと思います。そういうことを考えれば、いわゆるイベントを打っていくのも非常に効果が大いだと。そうした中で、先ほども申しました繰り返しになりますけれども、情報をどれだけ出していくかが大きな課題になろうかと思っておりますので、そこら辺見ていらっしゃったらわかると思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

◎浜田（英）委員長 以上で、地域観光課を終わります。

〈おもてなし課〉

◎浜田（英）委員長 次に、おもてなし課について行います。

（執行部の説明）

◎浜田（英）委員長 それでは質疑を行います。

◎大野委員 この9月議会で、自分は時間がなくなって、最後に質問ができなかったことがあります。LCCの誘致のお礼とあわせて、高知龍馬空港のバリアフリー化を質問したかったですけれども。例えばタラップを上がる時とかに、そのまま車両で、車椅子なんかで来たりして、そのまま車椅子で上られるような設備があるらしいんですけれども。そういったことを国交省が事業化されて、全国に導入をしていこうということがあるみたいな、情報があれば教えていただきたいんですけど。

◎谷脇おもてなし課長 高知龍馬空港のバリアフリーの状況につきましては、現状につきましても現地調査を行っております。空港ですのでほかの機関に比べると割とバリアフリー化はできているんですけど。先ほどのLCCの、他県でもありましたような事例もありますので、そういったことは今後高知龍馬空港というか、国交省と高知龍馬空港側の空港整備の話になってきますので、土木部ともそういった情報も共有していきたいと思っています。またこれから話をしていく状況だと聞いております。

◎塚地委員 今の関連というか、高知龍馬空港に関してのことやないんですけど。バリアフリー化推進事業の委託料で、情報収集しましたという御説明があつて。情報収集して課題が抽出できて、解決の計画みたいなものになっているのかを教えてください。

◎谷脇おもてなし課長 バリアフリーの調査の件なんですけど。まずは正確なバリア情報とかバリアフリー情報を、観光客の方にお伝えをすることを目的にしております。将来的にはバリアフリーの状況とかのお問い合わせがあつたときに、正確な情報を観光客の方にお伝えすることによって、その方のさまざまな障害に合った、この場合この方には行けない場所だけど、こちらの方は行けるといふ、御自身での判断ができるような情報の集積をやっていきたいと思っております。

ただ、こういった現地調査をすることによって、調査を受け入れてくださっている機関のほうは、意識の向上にもつながってまいりますので、そちらの機関の方にも可能な限り同席をいただいて、調査をするようにもしております。そういった意識の向上にもつながっていくような働きもありますが、メインの目的といたしましては、バリアフリー情報、バリア情報の正確な収集と考えております。

◎塚地委員 わかりました。それこそ、JRの鹿児島のある駅におりようとした人が、おりた後、階段から運んでもらえないという情報もあつて。そういうことが前もってわかっていたら、ボランティアの方に来てもらうようなことも可能なので、正確な情報をお伝え

していただくのは大変大事やと思いますけど。先ほどおっしゃったように、さらに一歩進めて、そういう問題意識を持って改善に当たってくださるとなると、なおいと思うので、またその点も頑張ってくださいと思います。

私このおもてなし課では、いつもトイレの話しかしていないんですけどね。この間それこそ安居溪谷も行っちゃりまして。やっぱり一緒に高齢者の方が行かれるんで、バリアフリーのお手洗いがきちんとそれなりにないと、そんなにいっぱいある必要もないんですけど。やっぱりトイレは最大の課題じゃないかと。これから特に自然体験をしていくという、今までそういうものがないところにみんなに行ってもらう形になるんで、さっきの御答弁だと何か、お金を稼げる施設と一体化して構えてほしいとかおっしゃったけど、そんなことできるのかなと思って。やっぱり一定投資せんと、トイレがふえていくことにならんがじゃないかと思って、ちょっともう一編おもてなし課でもお話聞いてみたらどうかと。

◎谷脇おもてなし課長 おもてなし課としましては、なかなか整備をしていくところまでの補助メニューまでは持っていないんですけど。先ほどのバリアフリーの情報と同じようにはなりますが、ここの観光地に行くには、こういったユニバーサルトイレがここにありますがとか、ベビーベッドを備えたトイレであるとか、障害のある方が寝転べるトイレがありますとか。そこの観光地に行くまでの間に利用できるトイレの情報もしっかりと提供していきたいと、このバリアフリー調査の中で思っておりますので。観光施設だけではなくて、周辺のトイレとかそういったところも。施設の中のトイレでも、誰でも利用できるトイレであれば、ここはホテルだけどなたでも利用できますよとか、そういった情報も収集しながら、お客様に伝えていきたいと思っております。

◎塚地委員 わかりました。それもすごい大事なことでね。とりあえずここで済ましてから行ってね、ということもできるから大なんやけど、やっぱりその場にね。もうずっと一貫してトイレ、トイレって言い続けて。なかなか維持経費も大変なんやとは思いますが、やっぱり思い切ってもう、自然に親しむ観光ということになると必需品なんで。いろいろ思い切った予算措置も要るんじゃないかと思うんで、また検討してみてください。

◎吉村部長 仁淀川町のトイレ整備については、今31年度予算のオーダーを各市町村からいただいております。その中にも、先ほど澤田課長から御説明しましたようなプランでオーダーをいただいておりますので、また仁淀川町とお話をさせていただいて、進めていきたいと思っております。

◎大野委員 ちょっと補足で。仁淀川町なんですけど、やるのはいろんなメニューでやれるんですけども、それから後の、維持経費の問題も含めて管理を誰がするのかというところが、これが人がどっさりおれば別ですけど、本当になかなか大変なんで。やっぱりそうしたベースの部分、例えばここはどこが、どういう人が、どういう団体が管理する、そういうところからまたよろしくをお願いします。

◎浜田（英）委員長 以上で、おもてなし課を終わります。

これで、観光振興部を終わります。

以上をもって、本日の日程は全て終了いたしまして、次回は明日11月9日、金曜日に開催し、水産振興部と土木部の決算審査を行います。

開会時刻は午前10時といたします。

本日はこれで委員会を閉会いたします。

（16時19分閉会）